九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

平成28年度修士論文・卒業論文概要

木村，栞太
九州大学大学院人間環境学府

古閑，千晶
九州大学教育学部

吉川，健太
九州大学教育学部

西村，直人
九州大学教育学部

https://hdl.handle.net/2324/1932055

出版情報：教育経営学研究紀要. 20, pp.131-142, 2018-03-29. The Laboratory of Educational Administration, Educational Law Graduate School of Kyushu University
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

教師の役割葛藤に関する一考察
―若年教師のソーシャルネットワーキングサービス使用を手がかりに―

古閑　千晶
（平成 29 年 3 月卒業）

【章構成】

序章　本研究の目的と方法
第１章　教師の役割葛藤と教師期待
第２章　若年教師と SNS
第３章　SNS 使用に関する若年教師の葛藤
　　若年教師へのインタビューをもとに
終章　本研究の成果と課題

【概要】

序章　本研究の目的と方法

教師には、常に様々な役割期待が寄せられている。生徒や保護者、教育委員会、文部科学省など、多方面から寄せられる役割期待の持つ「両価性」により、教師は葛藤を抱いていると考えられる。また、安藤（2005）は、社会に「教職＝聖職」という認識が浸透しているため、過度な役割期待による役割葛藤が起こっていると指摘している。更に、学校現場だけではなく、私生活においても「教師らしい」行為が求められ、教師は葛藤を抱いていると推測できる。

そして、近年、教師や生徒・保護者を取り巻く環境を変え、私生活に大きな影響を与えているものがソーシャルネットワーキングサービス（以下、SNS）である。後述するように、私生活の一部であり、人々の生活に欠かせないものになりつつあるため、保護者の詮索を恐れ学生時代の投稿を消す若年教師も存在する。また、SNS は教師と保護者・生徒間での連絡手段として使われ始めている。社会に SNS が浸透していくのに伴い、私的に使用する SNS にも、「教師らしさ」が求められ、加えて教師と保護者・生徒の関係が SNS 上にも広がることで、教師は新たな葛藤に直面していることが予測される。

しかし、私生活における役割葛藤については、テレビや新聞、ネット記事において「私生活でも教師らしくいるべきなのか」という議論はなされてきたものの、それらの構造を分析した研究は少ない。更に、SNS は近年で急激に普及したものであるため、同様に研究の蓄積が少ない。そこで本研究は、SNS の使用を手がかりに、教師の役割葛藤の内実を分析することを目的とする。なお、学生時代から SNS が存在し、他の年代と比較して使用率が高い若年教師を対象とし、日本での利用者数が多い Facebook・LINE・Twitter を中心に取り扱う。

第一章　教師の役割葛藤と役割期待

本章では、教師の役割葛藤と、その根底にある役割期待について概念を整理するとともに、これまでの教師の役割葛藤研究について検討し、本研究の意義を示す。

役割期待が複数あり、それらの両価性によるジレンマに陥る場合、個人の本来の人格と役割期待がそぐわない場合に、人は「役割葛藤」を抱くとされる。先述したように、「教職＝聖職」という認識から、倫理的・道徳的行為を期待されやすく、多方面から役割期待を寄せられる教師は、役割葛藤を起こしやすいといわれている（安藤前掲）。

教師の役割葛藤研究には、①教師の悩みや不安、困難に着目した研究、②役割葛藤の構造を分析した研究があるが、役割葛藤の本質を捉えるためには、その構造を分析する必要があることを確認した。そして、安藤（前掲）の研究は、それまでの教師の役割葛藤研究の不足を補うものであり、役割葛藤の構造分析に取り組むものであったが、葛藤状況や当事者の心情を詳細に分析しているとは言い難い部分があった。この点が先行研究の到達点であり、本研究はこの不足を補うものであることを示した。

第二章　若年教師と SNS

本章では、SNS の急激な普及と社会への浸透状況を整理し、SNS の使用場面においても寄せられている教師への役割期待について概観した。SNS とは、登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスを指し、友人同士や共通の趣味等をきっかけに、気軽に繋がりを持つことができ、利用者間の双方向のコミュニケーションが可能となるものである。00 年代後半以降のスマートフォンの普及により、SNS は生活の中で時間や場所を問わず利用可能になり、その利用の幅を広げている。

日本において普及率が高い Facebook・Twitter・LINE のそれぞれについて特徴と普及率を整理した。連絡手段として定着しつつある LINE をはじめとして、SNS は年代を問わず普及しており、特に 10 代・20 代の普及率が高く、気軽に情

報発信をしていることを確認した。そして、SNSがつくる情報コミュニティの特徴と問題点を整理し、それらが現実世界のコミュニティに変化をもたらしていることを確認した。そして、その影響を大きく受け、リスクを認識しながらも、若年層が承認欲求やSNS上の「きずな」への執着等から、SNSをやめることができない状況が起こりつつあることを指摘した。

教育の場面に視点を移すと、2013年に「情報教育を考える会」が公開した、教職員向けの「ソーシャルメディア利用のガイドライン」では、教師が私的に使用する際の確認・注意事項が記されていることに加え、教師のSNS使用で問題となった事例を踏まえ総合的に検討すると、以下の2点が把握できる。①SNS上でも品位を保ち良識ある発言・投稿をすることが教師のふさわしい行為だと社会から認識されていること。②SNS自体が急速に発展しているため、法整備が整っておらず、SNS使用が基本的に教師個人の裁量に委ねられていること。

第三章　SNS使用に関する若年教師の葛藤
―若年教師へのインタビューをもとに―

本章では、学級担任をしている若年教師8名へのインタビューをもとに、SNS使用における若年教師の役割葛藤について検討した。Facebook・Twitterに関しては、教師になることで発信内容の制限と投稿回数の減少が見られ、保護者からの興味と監視に対する拒否反応と、教育実習時のSNS使用に際する問題が明らかになった。LINEに関しては、保護者との連絡手段としての使用において、時間外対応等のリスクを軽減したい一方で、利便性から活用を求められる場面において葛藤状況の一端を確認できた。

更に、若年教師を4つに分類し（図1）、タイプ別に特徴とSNS使用における役割葛藤を分析した。1つは、教師としての立場を意識して発信を行うタイプである。このタイプは、SNSに対する危機管理意識が高く、教師として「教師の実状を広く発信する役割」と、個人情報を保護し、「子どもを危険から守る役割」の二つの役割期待の両価性により葛藤を抱いている。2つ目は、私的にSNSを使用しながら発信を行うタイプである。SNSで私的な投稿を発信しており、「SNS上の私」と「教師としての私」を切り離して捉えている特徴がみられた。公私に分別をつけ、「教師としての私」に寄せられる役割期待を重視しているため、SNSを通じて過去や私生活が「覗き見」され、教師としての役割期待を寄せられることに、葛藤を抱いていた。更に、私的に使用するSNSを「教師だから」抑制しなければいけないことに葛藤を抱いていた。3つ目は、私的にSNSを使用するが、発信をしないタイプである。友人との繋がりを保つための連絡手段としてSNSを使用しており、一部の保護者との連絡手段としてLINEを使用していた。使用に比較的葛藤を感じない分、SNSに関する危機管理意識が低いことが明らかになった。4つ目は、教師への役割期待の意識から、発信を極力控えているタイプである。SNSに対する危機管理意識が最も高く、私生活も「教師らしくあるべきだ」という認識を持っていることが特徴であった。役割期待を強く感じて行動するが故に、教師に寄せられる役割期待を過度に感じる場合や、自分の本来の人格と求められる役割期待がそぐわない際に、役割葛藤を抱いていた。

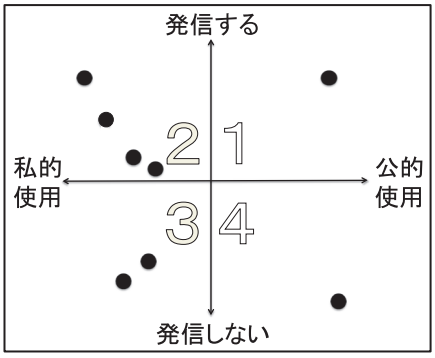

図 1　SNSへの認識に関する図

終章　本研究の成果と課題

本研究では、私生活における教師の役割葛藤を構造的に分析する必要性を確認した。その上で現代特有の課題といえるSNSに着目する研究の意義を示した。これらを踏まえて若年教師を対象にインタビュー調査を行い、Facebook、Twitter、LINEそれぞれの役割葛藤状況を明らかにした。更に、役割葛藤状況を分類することで、より細かな特徴と葛藤状況の詳細を捉えることができた。

しかしながら、SNSの内実に関する先行研究の検討が不足している点、第3章において、実名性の高いFacebookと匿名性の高いTwitterを分けずに分析した点、インタビュー結果をもとに可能な限り分析を行ったが、今回の調査では、想定できる様々なタイプを網羅できなかった点が課題である。

【主要参考文献】

・ 安藤知子『教師の葛藤対処様式に関する研究』多賀出版、2005年。
・ 総務省「第2部　ICTが拓く未来社会」平成27年版情報通信白書、pp.199-214、2015年。
・ 船津衛・浅川達人『現代コミュニティとは何か　「現代コミュニティの社会学」入門』恒星社厚生閣、pp.196-213、2014年。